

気候変動対策の一層の推進を！

公共施設における再エネ化は拡大の方向性へ！

立川市では「第2次地球温暖化対策実行計画」(市役所や小中学校など市の公共施設等の計画)において、2030年度までに2013年度比で42%の温室効果ガスの削減を目指しています。

公共施設での太陽光パネル・蓄電池の設置や再エネ調達なども少しずつ進んできました。

可燃ごみの焼却熱も発電に利用され、市役所の電力が賄われています。こうした再エネの仕組みを更に推進していきます。



立川市全体のCO₂削減に向けても少しずつ！

市全体の温室効果ガス削減に向けても少しずつ取り組みが始まっています。2025年度は住宅の断熱改修を市内事業者が発注すると、最大5万円の補助が受けられる制度が始まりました。市で用意した総予算額は150万円。事業開始後、申請が相次ぎ、早々に上限に達しました。

2026年度は250万円と予算が拡充。市内事業者の支援と気候変動対策を両立させる取り組みとして、今後の展開にも期待が高まります。ただ、こうした取り組みは賃貸住宅にお住まいの方には届いていない側面もあります。本来、気候変動対策はすべての人が参加できるものであるべきです。誰もが無理なく関わることができ、より効果的な政策を今後も求めていきます。

生ごみたい肥化事業が拡充！

市の事業として定着できるか注目！

これまで大山団地で行われてきた生ごみのたい肥化が2024年10月から、団地の外でも複数の世帯でグループを組めば回収してもらえる形で拡充されました。私も拡充を求めてきた取り組みであり、大きな前進です。

当初は参加するグループが集まらないなど課題もありましたが、参加世帯からは「ごみに対する意識も高まった」、「続けて欲しい」と大変好評です。現在は試行的な取り組み段階ですが、本格的な事業としての定着を目指していきます。

マイクロプラスチック対策の推進を！

少しずつ対応は進んでいるものの…！

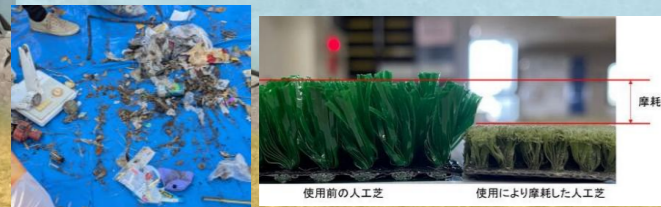
私たちは、1週間にクレジットカード1枚分のプラスチックを摂取しているとも言われており、健康への影響も懸念されています。

こうした中、立川市でも対策が一步進みました。新たに整備された人工芝については、排水口にフィルターを設置する等、マイクロプラスチックの流出を抑える取り組みが実現しました。

また、学校給食で使用されるストローも、生分解性バイオポリマー製のものと切り替えられ、環境学習の観点からも意義のある取り組みとなっています。

一方で、プラスチック問題は依然として大きく、根本的な解決には国レベルでの政策の転換が必要だと感じています。

市としてできることの限界を感じながらも、市の清掃キャンペーンの取り組み強化など、少しでもできることを、これからも求めていきます。



↑多摩川クリーンアップキャンペーン ↑摩耗する人工芝プラスチック由来のゴミがたくさん (多摩市HPより)

マイクロプラスチックによる川の汚染でリガードマンたちは困っている

解散総選挙、現場の負担は？

時間外勤務 200時間超と大きな負担が…！

今回の衆議院総選挙は、解散から投票日までたったの16日という、極めて短い準備期間で実施されました。通常は2か月以上前から準備が進められるところ、今回は事務が短期間に集中し、投票所入場整理券の配布などにも影響が生まれました。

さらに、選挙事務に従事した職員3人で約680時間、1人あたり200時間を超える時間外勤務が発生するなど、現場に大きな負担がかかっていたことが、私の一般質問を通して明らかになりました。

突然の選挙で選挙事務に追われている職員が大変そう

いわゆる「過労死ライン」とされる100時間を大きく上回る状況が生じたことは、重く受け止める必要があります。そのような中でも選挙を適正に執行した選挙管理委員会および事務に従事された職員の皆様には、深く敬意を表します。

本来、選挙は民主主義の根幹であり、安定的に運営されるべきものです。今回明らかになった現場の実態を踏まえ、どのような準備期間や体制が望ましいのか、今後しっかりと検討していく必要があると感じています。

若者会議が実現しました！

初年度は「若者会議のあり方」を若者自身が議論

議員になって以来、若者の声を政策に反映させる仕組みの実現を提案してきました。このたび、その取り組みとして「若者会議」が実現しました。

SNSやホームページでの周知に加え、対象年齢の市民に案内を送付するなどして若者の参加を得て、昭島市との共同開催で昨年秋から計4回にわたり実施されました。

若者たちでまちの未来を活発に議論！

初年度は、そもそも若者会議とは何か、そのあり方自体を若者自身が議論しました。最終発表会では、立川・昭島の両市長が臨席する中で、「若者の声を行政に届ける場」、「コミュニティをつくる場」、「一歩踏み出し挑戦する場」といった提言や、親しみやすい名称の検討など、今後につながる重要な方向性が示されました。若者の声を政策につなげる仕組みが、いよいよ動き出しました。

26年度は若者たちの政策提案を実現へ

次年度はさらに踏み込み、参加者が考える地域課題の解決に向けた議論を行い、具体的な政策提案へと発展していく予定です。一般質問では、こうした提案が「聞いて終わり」にならないよう、実際の施策に反映できる仕組みの必要性を訴えました。

その結果、市からは、議論の成果を施策に反映できるスケジュールで実施し、提言にとどまらず実際の施策として展開可能であるとの考えが示されました。

若者の声を確実に形にしていく取り組みとなるよう、引き続き取り組みを進めていきます。

山本ようすけ (立川市議会議員)

- 1990年 11月6日 武蔵村山生まれ、稲城育ち
- 2009年 立川高校卒業
- 2014年 一橋大学 社会学部 卒業
- 外資系コンサルティング会社に就職
- 2018年 立川市議会議員選挙に立候補、初当選 (1,288票)
- 2022年 立川市議会議員選挙、二期目の当選 (2,082票)
- 会派「立憲ネット緑たちかわ」、厚生委員会 委員長

【議員以外の所属等】
 保護司、緑の党グリーンズジャパン、如水会(一橋大学同窓会)会員
 気候危機・自治体議員の会(呼びかけ人)、紫芳会(立川高校同窓会)会員
 【好きなこと】
 歴史、博物館や美術館に行く、登山、街歩き
 ゲーム、ドラクエならIVとV

各種SNS等、「山本ようすけ」で検索！



若者会議の発表会に臨席した白井昭島市長と酒井立川市長

学びの多様化学校(不登校特例校)「鎌倉市立由比ガ浜中学校」に会派視察